

次期総合計画の策定に向けて

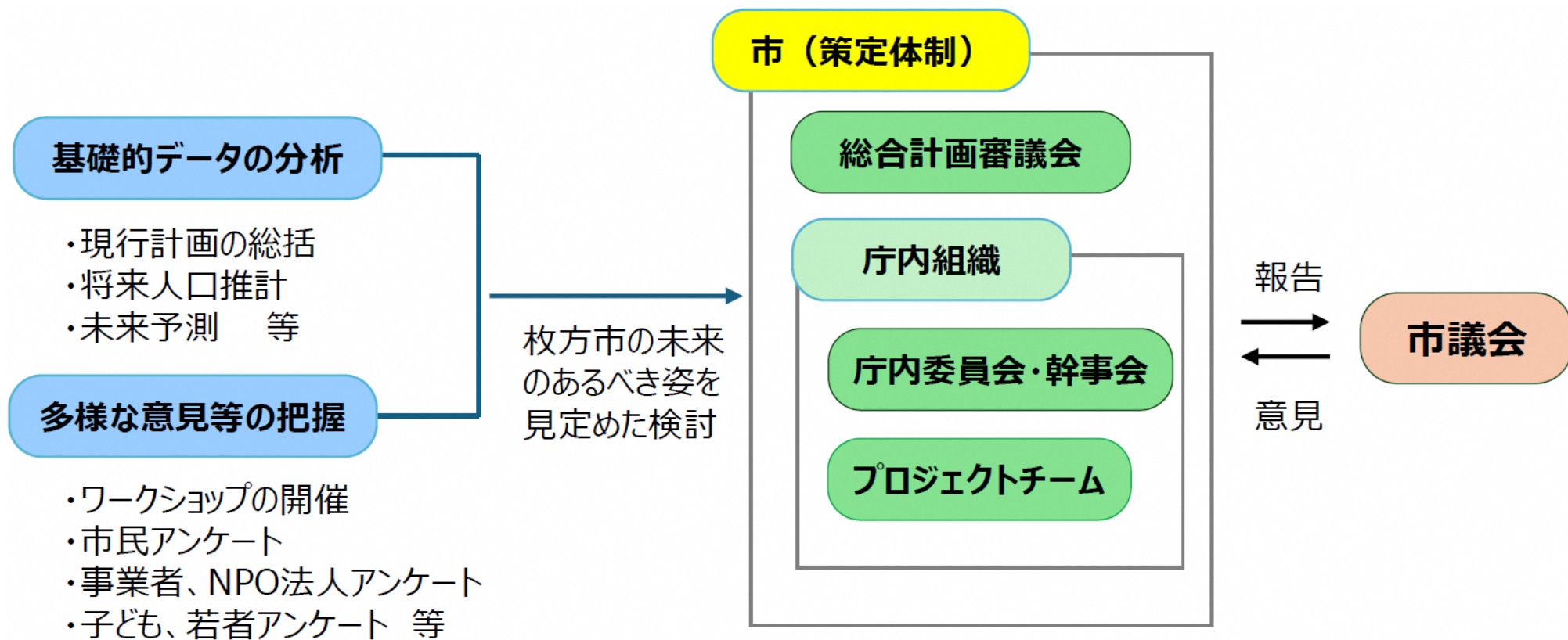
総合政策部 企画課

ロードマップ（全体）

令和8年度	取組内容	令和9年度	取組内容
6月～	基礎調査、現行計画の検証、アンケート調査、まちづくりワークショップ、将来人口推計など	4月～	総合計画試案についての議論
8月	【第2回審議会】 取り組みの進捗状況の共有	10月	総合計画（案）の作成
9月	【第3回審議会】※部会 総合計画基本構想素案について議論	11月	市民説明会等の実施
11月	【第4回審議会】※部会 総合計画基本構想試案について議論	12月	総合計画（案）について答申
12月	市議会へ総合計画基本構想試案の説明	1月	パブリックコメント等の実施
1月～	総合計画基本計画試案の作成	2月	総合計画の策定について議案提出
		3月	総合計画の確定・公表

※取組内容・審議会開催回数は現時点での予定であり、作業の進捗等により前後する場合があります。

策定に向けた取組のイメージ



次期総合計画策定にかかる基本的な考え方

（１）枚方市の未来を見定めた総合計画

固定的な計画期間にとらわれることなく、人口減少や高齢化、気候変動、技術革新など、社会情勢の変化や新たな課題を見据えたうえで、長期的な視点で枚方市が目指す姿を描き、バックカスティングの視点も含め、その実現に向けて今後実施していく施策を検討します。

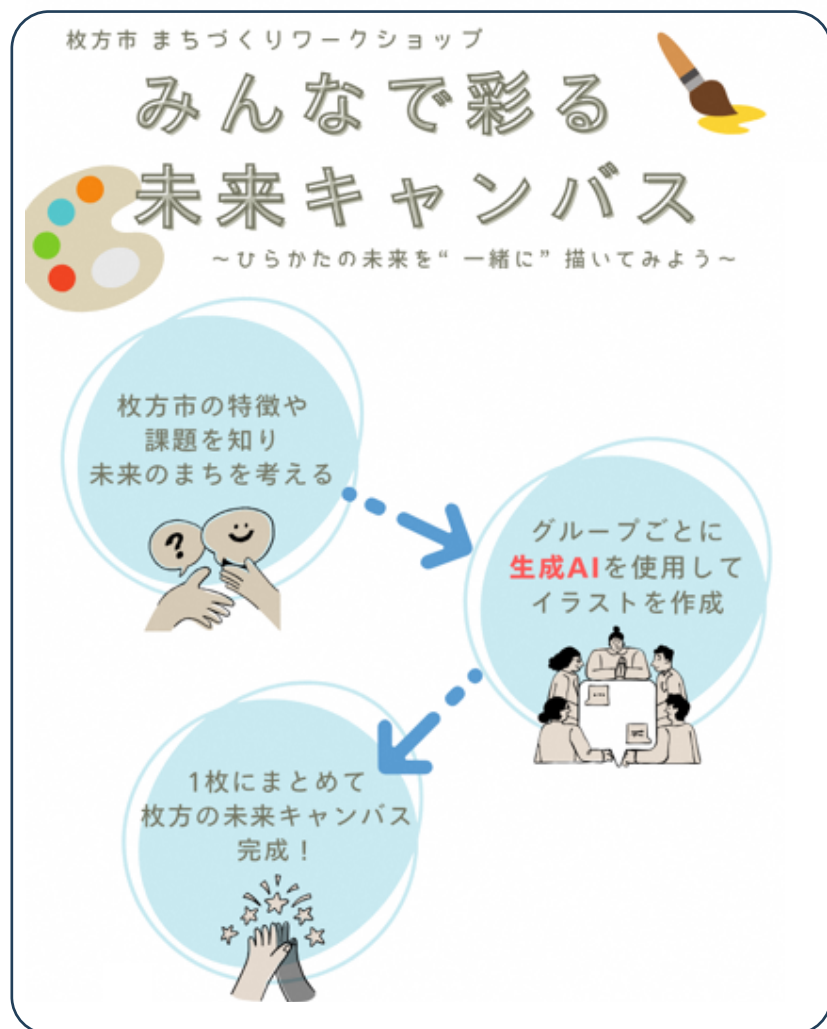
（２）市民や事業者など多くのまちづくりの主体の参画

市民や事業者などのニーズ把握を的確に行うため、多くのまちづくりの主体に計画策定プロセスなどに参画していただくとともに、一人ひとりの人権が尊重されるまちづくりにつながるよう市全体で計画を策定します。そうした観点から、広く市民や事業者、特に声をあげられない、あげにくい人たちの声を拾いあげていきます。

また、未来を担う世代であることも・若者世代については、意見表明や策定への参画機会などを確保することで、まちづくりを担う当事者としての意識醸成も目指します。

（３）新たなデジタル技術の積極的な活用

A I などの日々技術革新が進むデジタル技術の積極的な活用により、課題やニーズ分析等の深化を図るとともに、これまでのアンケート等では拾いきれない、よりエビデンスに基づいた施策の検討に取り組み、SNSといった人々が日常的に利用するツール等における分析をはじめ、これまでの行政の発想にない手法の活用により意見を抽出することを目指します。



<目的>

枚方市のまちづくりを担う市民、市民団体、事業者が行政とともに枚方の未来を共創することで、各主体が当事者意識を持ち、まちづくりを主体的に考える機会とすることにより、まちづくりへの参画意識の醸成を図ります。

<応募状況>

市民32名（うち、学生7名、女性19人）、事業者等6者

<審議会委員への登用>

市民参加者のうち、2名を審議会委員へ登用予定です。

（委員に興味を示す割合：75%）

各種アンケート調査

次期総合計画の策定にあたり、多様な主体の参画の手段の一つとして各種アンケート調査を実施。得られた意見やニーズは、ワークショップや庁内プロジェクトチームにおける検討の基礎資料とします。

個人の夢やまちの未来などを中心に、自由な意見を幅広く募ります。また、意見聴取を継続して行うことで、まちづくりを担う当事者意識や地域への愛着の醸成にもつなげていきます。

基本構想の検討に向けた意見聴取

<アンケート構成>

●属性

年齢、お住まい、職業など

●共通項目

まちへの愛着、定住意向、枚方市での暮らし、
施策目標の重要度・満足度など

●特化項目

子どもや若者、事業者など対象者ごとに、重点的に聞きたい項目を設定

(例) 若者 : 定住意向の深堀

事業者 : 人口減少・少子高齢化の影響

事業拡大に向けて必要な市の支援など

<確認事項>

①枚方市のイメージについての市内外のギャップ

②ひと・まちの両側面から基本構想を検討

③各主体や年代別の動向

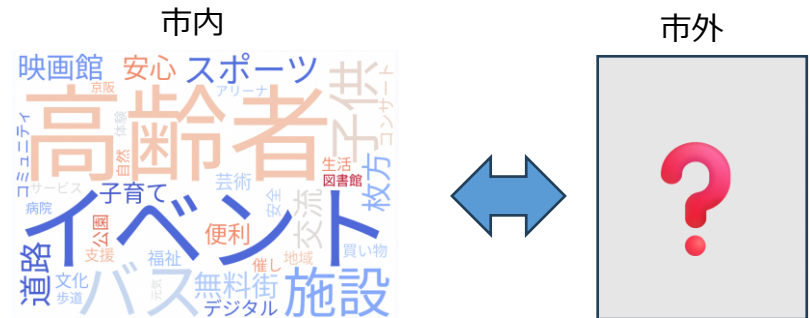
確認事項①：枚方市のイメージについての市内外のギャップ

市内・市外双方の視点から、枚方の強みと弱みを確認し、移住定住の傾向、プロモーションの効果、関係人口の動向等を分析する。

<分析のイメージ>

- 枚方のイメージを具体化

ワードクラウド（頻出単語が大きく表示）で「市内と市外」、「年代別」など属性による違いを確認。



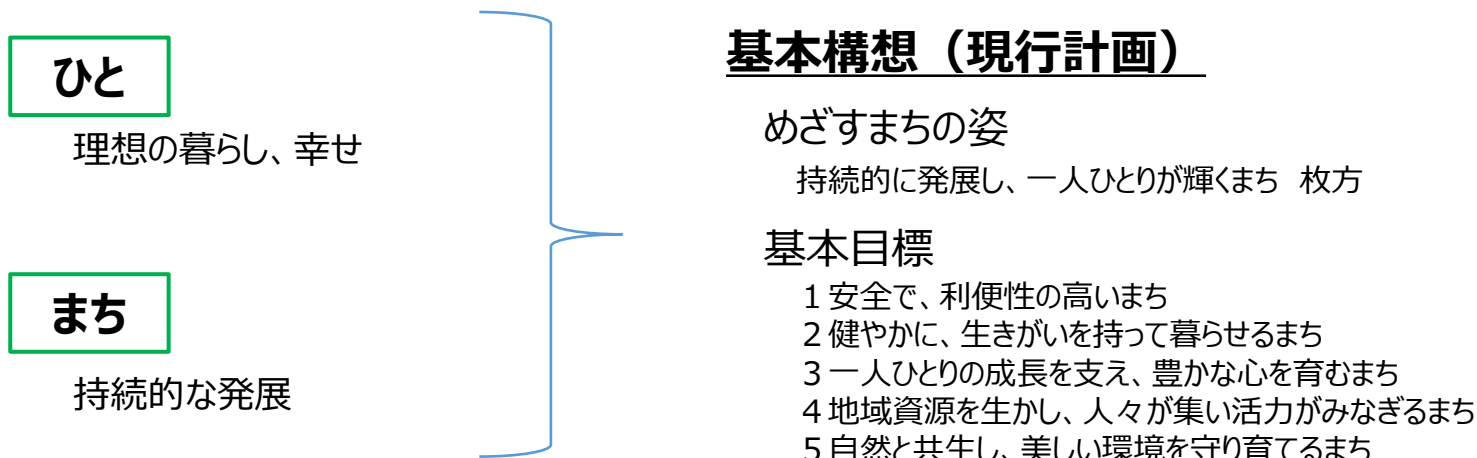
- 枚方の強み・弱みの分析

得られた結果から枚方市の現状や将来性といった要素を把握、分析していく。
別途実施するSNS分析などとあわせて、「強みを伸ばす・弱みを克服する」施策への検討などにつなげていく

➡ 市内外問わず幅広くインターネットアンケートによる調査

確認事項②：ひと・まちの両側面から基本構想を検討

市民の理想の暮らしや幸せは今の枚方市で実現可能か、また、未来の枚方を良くするためのアイデアなどを「ひと」「まち」それぞれの側面からアプローチし、基本構想の検討につなげる。



<まちづくりの目標を考えるにあたって>

一人ひとりの市民が希望を持ち、やりがいや充実感を感じて生活できることが重要。同時に、個々の輝きだけでなく、まち全体が魅力的で活気に満ち、住む人が誇りや愛着を持てるまちづくりが不可欠である。



市内での調査（対象者は個人、事業者等の両方）

確認事項③：各主体や年代別の動向

共通項目をもとに、定住意向や枚方での暮らしや愛着から、どの年代から市外での暮らしを意識するのかなどを把握し、魅力的なまちづくりの検討につなげる。

●共通項目と質問（例）

ひ と	ま ち
理想の暮らしや幸せ(well-being) 「今の枚方市で自分の理想の暮らしや幸せを実現できると思いますか。」	枚方市の強み・弱みの確認 「あなたの考える“枚方市の強み（特徴、魅力）”は何だと思いますか」 「あなたの考える“枚方市の弱み（課題、枚方市に足りないもの）”は何だと思いますか。」
理想の暮らしや幸せ(well-being)に必要なこと 「理想の暮らしや幸せを実現するうえで、障壁となっていることや、行政の手助けが必要なことはありますか。」	まちへの愛着 「枚方市に愛着をお持ちですか」
枚方での暮らし、生活満足度(well-being) 「現在の生活にどの程度満足していますか」	現行計画の施策目標の満足度 「今の枚方市が“〇〇なまち”だと思いますか」
定住意向 「今住んでいるところに、これからも住み続けたいと思いますか」	理想のまち、未来の枚方市のイメージ 「“理想のまち”になるためにはどんなまちづくりが必要ですか」

<アンケート対象者>

子ども ➡ 若者 ➡ 市民

事業者等（活動年数） 1年 ➡ 5年 ➡ 10年以上など